

宇都宮文化財マップ。

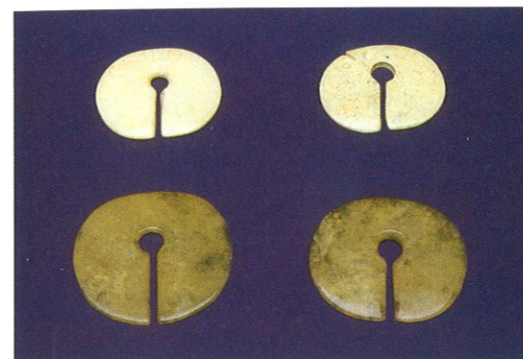
— 古代史の回廊 —



国指定史跡 根古谷台遺跡【うつのみや遺跡の広場】

宇都宮市教育委員会

ねごやだいいせきどこうしゅつどひん 根古谷台遺跡土壙出土品



根古谷台遺跡土壙出土品は、根古谷台遺跡の土壙（墓穴）から出土したものです。いずれも石製で、耳飾（球状耳飾）・首飾（小玉・管玉）などの装身具と、石匙・石鏃が発見されました。装身具はその出土状態から遺体に装着されたまま埋葬されたものと考えられます。縄文時代の装身具の実態や石器の製作技術を知ることができる重要な出土品です。

なおこれらの出土品は、清明館内展示室で展示しています。

〔国指定重要文化財〕

もくぞうしやうかん ぜ おん ぼ さつりつぞう 木造聖観世音菩薩立像【茂原観音堂】

■ E・4



茂原観音堂に安置されている木造聖観世音菩薩立像は、安産・子育ての信仰が厚く、茂原観音とも呼ばれて親しまれています。60年に一度開帳（公開）されるという秘仏であり、金箔がよく残っています。

縁起では、「承安4年（1174）、この地に住んでいた宇都宮氏の家臣裳原遠江守家次が、枕辺に立った聖観音の像を彫刻して安置した」と伝えられていますが、室町時代に造られた仏像です。

〔市指定有形文化財〕

まび ず え ま 間引き図絵馬【茂原観音堂】

■ E・4



「間引き」とは、生まれたばかりの子どもを家の生活が苦しいために殺してしまうことです。江戸時代に幕府や藩は「間引き」を厳しく禁止し、特に宇都宮藩は「間引き」禁止の教育に熱心でした。

この絵馬は、天保14年（1843）、地元の名主によって奉納されたもので、村の人たちに「間引き」の悪行を戒めるためにつくられたものと思われます。

〔市指定民俗文化財（有形）〕